

交通部会見解

1. 複合環境影響について

周辺事業との複合環境影響を踏まえた調査地点を定め、現況調査、予測及び評価を実施すること。

2. 交通計画について

当該事業における交通計画については、発生交通量を想定した需要予測型の対応ではなく、事業者が先進的な取組を講じることで発生する交通量をコントロールし、可能な限り交通量を減少させるような交通需要マネジメントの考え方に基づいた計画を示した上で、環境影響評価を実施すること。

3. 交通混雑について

(1) 現況調査、予測の手法及び評価の方法

ア 現況調査

(ア) 協議・連携を想定している公共交通機関の輸送力及び乗車率等を調査すること。

(イ) 周辺駐車場の稼働状況等を調査すること。

(ウ) 海外を含めた他の類似施設における交通混雑を緩和するための取組事例を調査すること。

イ 予測及び評価の手法

(ア) 交通渋滞(渋滞長)の状況を調査し、駐車場への入出庫に起因する交通渋滞の影響も踏まえて渋滞長及び通過所要時間を予測し、評価すること。

(イ) 予測の前提となる交通計画を明確にし、想定される来場台数を見直した上で予測すること。

(ウ) 交差点需要率では予測又は評価が難しい箇所(駐車場出入口付近、車線変更による交通混雑への影響など)について、必要に応じ、交通流の動的シミュレーションを用いて、予測又は評価を実施すること。

4. 交通安全について

(1) 現況調査、予測の手法及び評価の方法

供用後の歩行者の往来に起因する「歩行者の交通安全の確保」を項目として追加し、試合終了後の観客の動線と、その混雑度予測、安全性に係る現況調査、予測及び評価を追加すること。

5. 付帯意見

当該事業の重要な課題の一つである交通混雑の緩和及び交通安全の確保にあたっては、事業者の努力はもちろんのこと、道路管理者をはじめ地権者や吹田市、大阪府等のステークホルダーが連携調整する必要がある。今後、事業者及び行政機関は、これらの関係者が協議を行う場を設定し、交通課題の解決に向けた総合調整に取り組むこと。

エコスタジアムを実現するための 交通計画コンセプト

昨年度ゲーム開催状況

- ・ゲーム開催日数 24 日（デーゲーム 3 日、ナイター 21 日）
- ・そのうち万博公園入場者が 20,000 人を超える日のゲーム開催なし。

① 外周道路の車を増やさない

- ・万博記念公園のイベントに応じた試合開催
 - 桜まつり期間中の日曜日 : ゲームの開催を極力回避
 - GW 等の期間のピーク時 : 原則としてナイターで開催
 - 主要イベントなし : デーゲーム・ナイター開催

② ゲームに来る車を現状より増やさない

- ・駐車場予約システムの導入 : 台数・時間を制限
- ・モノレール・バス利用を促す : 増便、割引・特典
- ・シャトルバスの運行 : 新ルートの検討
- ・サポーターへの呼びかけ : エコの意識づけ

③ 無駄な渋滞を減らす

- ・歩行者と車の動線を分離
- ・駐車場の管理を改善 : 入車のスピードアップ
- ・駐車場予約システムの導入 : 予約時に駐車場を指定、空きを探す車を減らす。